

6 移動の状況

計画区域内の移動の状況としては、通勤・通学、業務、私事目的においては臨海部（勝どき・晴海等、豊洲・有明等）から都心部に向かう交通が多く、帰宅目的においては逆方向の交通が多くなっており、臨海部は居住地としての性格が強いことが分かる。特に勝どき・晴海等は、通勤・通学、帰宅目的の地区間の移動の50%以上の起終点となっている。

業務目的について見ると、銀座・新橋・虎ノ門等⇄豊洲・有明等の移動が地域間の移動の60%程度を占めており、豊洲・有明等も業務地として一定の集積があることがうかがえる。

単位：[トリップ/日]

<通勤・通学>		目的地			
		銀座等	勝どき等	豊洲等	計
出発地	銀座・新橋・虎ノ門等	0	355	1,045	1,400
	勝どき・晴海等	5,080	0	1,146	6,226
	豊洲・有明等	3,492	213	0	3,705
	計	8,572	568	2,191	11,331
<業務>		目的地			
		銀座等	勝どき等	豊洲等	計
出発地	銀座・新橋・虎ノ門等	0	1,187	2,378	3,565
	勝どき・晴海等	1,763	0	120	1,883
	豊洲・有明等	2,838	144	0	2,982
	計	4,601	1,331	2,498	8,430
<私事>		目的地			
		銀座等	勝どき等	豊洲等	計
出発地	銀座・新橋・虎ノ門等	0	3,114	719	3,833
	勝どき・晴海等	6,168	0	1,742	7,910
	豊洲・有明等	4,824	1,743	0	6,567
	計	10,992	4,857	2,461	18,310
<帰宅>		目的地			
		銀座等	勝どき等	豊洲等	計
出発地	銀座・新橋・虎ノ門等	0	10,548	5,825	16,373
	勝どき・晴海等	1,168	0	426	1,594
	豊洲・有明等	872	2,509	0	3,381
	計	2,040	13,057	6,251	21,348

出典：第6回東京都市圏パーソントリップ調査（平成30年）

参考：各ゾーンに含まれる町丁目

銀座・新橋・虎ノ門等	
0021	八重洲、京橋、日本橋
0022	銀座
0023	日本橋兜町、日本橋茅場町、八丁堀、新川、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮公園
0031	虎ノ門、愛宕、六本木、麻布台、麻布狸穴町、麻布永坂町、東麻布、西新橋、新橋、東新橋、浜松町、芝大門、芝公園
勝どき・晴海等	
0024	佃、月島、勝どき、豊海、晴海
豊洲・有明等	
0346	豊洲、東雲、有明、青海

計画区域内の分布交通における交通機関分担率を見ると、隣接する地域間の移動では鉄道の分担率は30%程度となっているが、豊洲・有明等⇔銀座・新橋・虎ノ門等間では55%程度となっている。バスは逆の傾向にあり、隣接地域間の移動における分担率のほうが高くなっている。

前回の調査である第5回の調査結果と比較すると、都心部⇔勝どき・晴海等では、鉄道、バス、徒歩の分担率が上昇しているが、自転車の分担率が10ポイントほど低下している。勝どき・晴海等⇔豊洲・有明等の臨海部間の移動においては、自転車とバスの分担率が上昇しているのに対し、電車、自動車、徒歩の分担率が低下している。自転車の分担率が著しく上昇した背景には、近年の自転車シェアリングの拡大が要因として考えられる。最も移動距離の長い豊洲・有明等⇔銀座・新橋・虎ノ門等の移動においては、分担率は大きく変化していない。

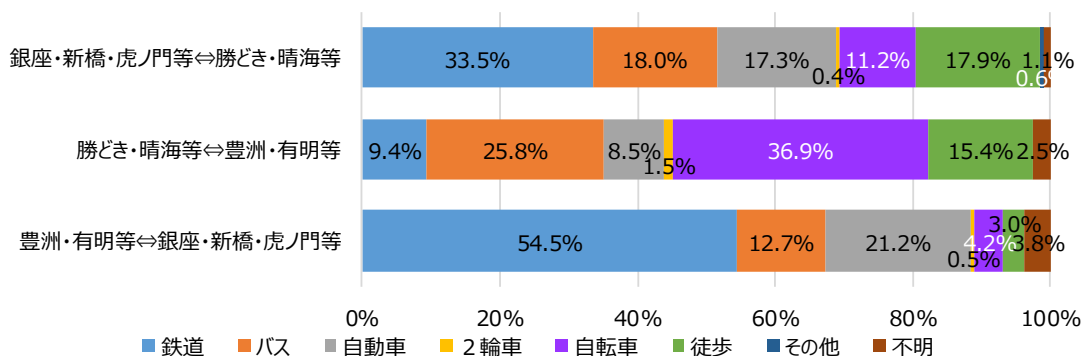


図 平成30年における計画地区内の分布交通における交通機関分担率

出典：第6回東京都市圏パーソントリップ調査（平成30年）

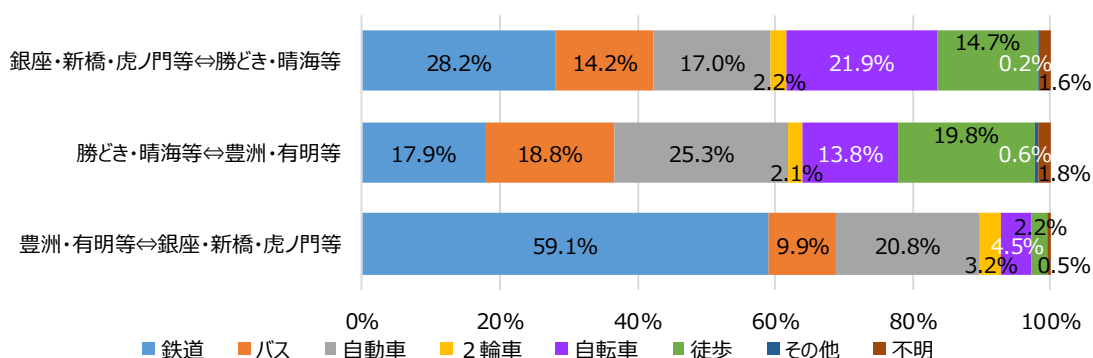


図 平成20年における計画地区内の分布交通における交通機関分担率

出典：第5回東京都市圏パーソントリップ調査（平成20年）